

# 横浜市立城郷小学校

## 令和5年度 学力向上アクションプラン

### 1 学校の状況と地域の実態

- (1) 授業研究を中心とした教員の研究・研修は定着してきている。仮説を位置付けたテーマに即した研究活動の充実には、さらなる工夫が必要である。
- (2) 経験の浅い教員が多く、基礎的な指導技術をより一層身に付ける必要がある。
- (3) 重点研究授業で取り組んでいた教育的支援が必要な子どもへの対応が少しずつ定着してきている。引き続き学校での指導体制を確立していく必要がある。
- (4) 子どもたちの一日の家庭の勉強時間は、ほとんどの学年で市の平均を下回っており、家庭における学習環境が十分には整っていない。
- (5) 地域ボランティアを活用した学習を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域との連携による学習を推進する努力をしている。

### 2 中期学校経営方針「確かな学力」 達成目標

#### (2) 学力向上に関する指導の目標・方針（令和5年度末の姿）

- 言語活動を中核に据えた自分の考えを表現できる学習の充実を図るとともに、より基礎・基本の定着を図り、横浜市学力学習状況調査の結果の底上げにつながる学習指導をめざす。
- 特別な教育的支援が必要な子どもの在籍する学級において安定した授業ができる指導技術を教師が身に付け、かつその手だてを充実させることで学力の向上を目指す。
- 放課後に教科担当者での授業改善の場を設け、わかりやすい授業づくりをめざす。

### 3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握（令和5年度学力学習状況調査より）

#### (1) 学力の概要と要因の分析 令和5年度横浜市学力学習状況調査結果

		国語		算数		社会		理科	
		知識・技能	思考・判断	知識・技能	思考・判断	知識・技能	思考・判断	知識・技能	思考・判断
2年	本校	69.3%	69.3%	77.0%	53.9%				
	市平均	75.1%	75.1%	80.1%	59.3%				
3年	本校	68.6%	68.1%	78.2%	61.8%				
	市平均	65.0%	67.7%	79.7%	62.7%				
4年	本校	57.3%	68.9%	84.1%	74.8%	83.9%	75.2%	84.6%	74.4%
	市平均	57.3%	65.7%	79.2%	72.2%	76.5%	71.2%	83.5%	74.7%
5年	本校	65.9%	53.0%	86.1%	53.5%	65.5%	53.1%	72.0%	70.2%
	市平均	67.9%	56.8%	86.4%	54.8%	72.3%	61.4%	72.0%	72.0%
6年	本校	66.8%	59.1%	76.8%	68.3%	77.1%	77.2%	61.8%	60.0%
	市平均	66.5%	60.0%	77.3%	70.6%	77.7%	74.0%	65.0%	59.5%

学力状況調査の本校の平均は、横浜市の平均を上回る学年とそうでない学年が生じる結果となった。低学年は、国語、算数とも横浜市の平均を5パーセント程度下回っている。中学年は、市平均に近い値であるが、やや上回っている教科がある。3年は、国語の知識・技能において3%以上市平均を上回っている。4年は、算数、社会の知識・技能において5%以上市平均を上回っている。高学年も市平均に近いが、

やや下回る教科がある。5年は、社会の知識・技能、思考・判断とも7~8%下回っている。6年は、理科の知識・技能において3%程度下回っている。低学年において、国語、算数の基礎知識をつけ、中学年、高学年につながることも中学年以降、新たに加わる社会や理科において社会的思考や科学的思考を身に付けさせる学習方法を検証し、授業実践していくことが、本校の学力の底上げになると考察できる。

#### (2) 教科学習の状況

- 国語科：知識・技能においては、市の標準化得点に近いが、思考・判断においては下回る学年もあった。
- 算数科：知識・技能においては、市の標準化得点に近いが、思考・判断においては下回る学年が多かった。
- 社会科：学年によってばらつきがあった。3・6年生は市標準化得点を上回っているが、5年は下回っている。
- 理科：学年によってばらつきがあった。3・5年生は市標準化得点を上回っているが、6年は下回っている。

#### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体としては、中学年の学力向上が図れた。横浜市の平均を上回り、学習意識も高くなったことが、学力向上につながってきたといえる。その反面、高学年の学力及び学習意識の低さが懸念される。高学年の学習意識の向上が、学校全体の学習意欲、ひいては学力向上につながると考えられる。学習意識調査からみると、学習が楽しいと感じている子どもの割合が高くなれば、課題に取り組む姿勢が意欲的になり、かつ活動にも積極的に取り組むことになると考えられる。さらに、そこで学習したことを日常生活で活かせるように支援することにより、より理解力を高めることになると考えられる。授業改善の視点として捉えたい。

## 4 令和5年度 目標と具体的方策

令和5年度 目標

### (1) 学校組織としての共通の取組

- 取組目標
- 具体的な取組

### ○ 言語活動の充実

1 学年

2 学年

3 学年

4 学年

5 学年

6 学年

個別支援学級